



Be the Right ONE

サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)

豊田通商グループは経営戦略に基づいて注力していく社会課題を明確にするため、企業理念・Global Visionの実現を目指す上で意識すべきサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)を特定しています。特定にあたっては経営層をはじめ、社内外さまざまなステークホルダーの皆様のご意見をとり込み、議論を重ねました。

当社グループにおけるマテリアリティは「Global Visionの3つの領域でToyota Core Valuesを発揮し、Be the Right ONEを目指す上で意識すべきもの」と位置付けています。社員一人ひとりがマテリアリティを意識して事業活動に取り組むことで持続的に成長し、社会課題の解決やSDGsへの貢献につなげていきます。

豊田通商グループのサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)





Be the Right ONE

サステナビリティ重要課題への取り組み

～環境負荷低減にも配慮した総合リサイクル事業～

豊田通商グループのリサイクル事業の歴史は長く、1970年に設立した豊田メタル株式会社の使用済み自動車（ELV）適正処理事業にはじまり、2000年以降の自動車メーカーの海外進出に合わせて、世界中で事業を展開してきました。

当社はモノづくり商社として、自動車生産工程由来のスラップの資源循環事業と、アルミ溶湯事業を中心に、米国・欧州・アジア各国において事業を展開しています。特にアルミ溶湯事業においては、これまでの再生塊での供給に比べて、大量のエネルギーを必要とする溶解工程を削減できるため、省エネルギー、かつCO₂削減に大きく貢献する事業として、グローバルに規模を拡大しています。またELV適正処理事業においては徹底した選別などの技術革新により、使用

済み自動車において100%に近いリサイクル率を達成しています。

自動車の生産から、物流、販売、そして廃棄・リサイクルまで、バリューチェーン全体での活動として、取り扱う製品も、鉄・非鉄、および貴金属、樹脂など多岐にわたります。最近では、使用済みハイブリッド用ニッケル水素電池のリサイクルや、自動車中古部品流通事業にも注力し、総合的な自動車資源循環に貢献しています。

さらに2021年には、国内最大級の再生プラスチック製造会社の稼働を予定しており、プラスチックの資源循環を促進、また従来石油を原料とするプラスチック製品を再資源化することでCO₂削減を通じた環境負荷低減に取り組んでいきます。



廃車ガラを回収、破碎して素材別に選別



液体のままアルミを運搬